

行歯会だより 第210号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

令和8年2月発刊



1 わたしたちの歯科保健計画＜その10＞ (P.2)

神奈川県 相模原市健康福祉局保健衛生部健康増進課
兼こども・若者未来局こども家庭支援部こども家庭課
副主幹 上重 寛幸

2 第84回日本公衆衛生学会総会 自由集会および懇親会 開催報告 & 静岡県歯科医療提供体制施策の再構築 (P.4)

静岡県健康福祉部医療局医療政策課医療企画班
技師 楠 雄登

3 第46回全国歯科保健大会開催報告 (P.7)

島根県健康福祉部健康推進課
課長補佐 古割 加奈

4 全国歯科保健推進研修会 in 松江 (P.8)

島根県益田保健所
所長・社会教育士 梶浦 靖二

5 JDATアドバンス研修会参加報告＜東日本ブロック＞ (P.10)

北海道浦河保健所企画総務課
専門員 桐山 結姫

6 「行政歯科衛生士研修会」報告 (P.11)

神奈川県 横浜市栄福祉保健センター福祉保健課
中澤 寛美

7 世話役のつぶやき＜神奈川県＞ (P.12)

神奈川県健康医療局保健医療部健康増進課
歯科保健班長 副技幹 大平 貴士

8 New Face!! (P.13)

東京都 中野区地域支え合い推進部地域包括ケア推進課
北部すこやか福祉センター
島村 陽南子

Ⅰ わたしたちの歯科保健計画<その10>

神奈川県 相模原市健康福祉局保健衛生部健康増進課
兼こども・若者未来局こども家庭支援部こども家庭課
副主幹 上重 寛幸

行歯会の皆さまには、日頃より大変お世話になっております。相模原市の上重です。
冒頭の写真は、昨年11月に相模原市で開催された「Alexandros」の野外フェス「THIS FES' 25IN SAGAMIHARA」に参加した際のもので、ご存じの方も多いかと思いますが、ボーカル・ギターの川上洋平さん、リードギターの白井真輝さんはいずれも相模原市出身で、国内外で高い評価を受けているアーティストです。

今年も10月31日、11月1日の2日間にわたり開催予定です。皆様も「THIS FES' 26IN SAGAMIHARA」にぜひご参加ください。出演アーティストは未発表ですが、例年「Alexandros」以外にも多彩で魅力的なアーティストが名を連ねています。相模原市は藤野芸術の家やJAXA相模原キャンパスがあり、都会と自然がちょうどいい距離感で共存するまちなので、ぜひお越しください。



話題が尽きないところではありますが、ここから本題に入らせていただきます。

相模原市では、「相模原市保健医療計画」に基づき、歯科保健を含む健康づくり施策を総合的に推進しています。ここでは、計画の成り立ちとともに、歯と口腔の健康づくりに関する主な取組を中心にご紹介します。

Ⅰ 経過

相模原市では、平成26年3月に歯科保健分野の単独計画として「相模原市歯と口腔の健康づくり推進計画」を策定しました。その後、令和5年4月に「相模原市健康づくり推進条例」（令和5年相模原市条例第26号。以下「本条例」といいます。）が制定されたことを契機に、健康づくり施策を総合的かつ計画的に推進するため、「相模原市保健医療計画」「相模原市食育推進計画」「相模原市歯と口腔の健康づくり推進計画」の3計画を一体化し、新たに「相模原市保健医療計画（第3次）みんな元気がみはら健康プラン21」（以下「本計画」といいます。）を策定しました。

2 相模原市健康づくり推進条例

本条例は、歯科保健に限らず、市の健康づくり施策全体の基本理念を示す条例です。このうち、歯科保健に関連する主な施策として、次の3つを掲げています。

- ①「むし歯、歯周病その他の歯科疾患の予防に関する施策」
- ②「口腔機能の発達及びオーラルフレイル対策に関する施策」
- ③「定期的な歯科医療機関の受診及び歯科保健指導の活用促進に関する施策」

これら3点は、本計画においても歯科保健施策の柱となっていますが、②については、条例策定委員会の強い要望で、かなりフォーカスを絞った施策となっており、本計画では少し抽象化して記載しています。

3 相模原市保健医療計画（第3次）みんな元気がみはら健康プラン21

本計画は、健康づくり施策に加え、医療体制や衛生管理なども包含した総合計画であるため、歯科分野の記載量は従来の単独計画より少なくなっています。しかし、内容面ではより充実し、全体として簡潔で分かりやすい計画となったと考えています。

本計画では、歯と口腔の健康づくりを推進するため、次の3つを「取組の視点」として掲げています。

- 「むし歯（う蝕）・歯周病の予防」
- 「障害児者及び要介護者等に対する歯科保健」
- 「定期的な歯科医療機関受診の促進」

3

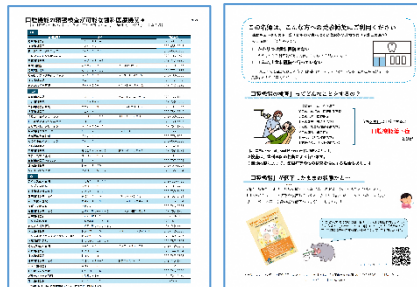
(3) 要介護者等高齢者に対する取組

要介護者等高齢者に対しては、オーラルフレイル予防を目的に、令和2年度から毎年リーフレットを作成し、歯科健康教育や啓発事業を通じて普及啓発を行っています。

また、「口腔機能の精密検査が可能な市内歯科医療機関名簿」を作成し、各地域包括支援センターを通して配布しています。



オーラルフレイル予防啓発を目的としたリーフレット



口腔機能の精密検査が可能な市内歯科医療機関名簿

さらに、令和8年度より「お口の健康診査」の一部対象年齢に対し、オーラルフレイルや口腔機能低下症の検査を実施できるよう、現在準備を進めています。

4 最後に

計画を一体化したことで、分野横断的な連携が期待される一方、計画を実効性のあるものとして動かしていく責任の重さを改めて感じながら、現在、「歯と口腔の健康づくり」に係る庁内ワーキングを設置し、他職種と意見を出し合って課題の洗い出しと改善に取り組んでいます。

また、歯科保健施策の推進には、歯科医師会や歯科医療機関との連携が不可欠です。とりわけ、「定期的な歯科医療機関受診の促進（かかりつけ歯科医機能の定着）」は、地域の歯科医療機関の協力なくして実現できません。本計画においては、「メンテナンス」という用語を用い、市民の皆様が歯と口腔の健康を維持するため、定期的にメンテナンスを受けることを生活習慣として定着させることを目的に取り組んでいます。障害児を受け入れることができる医療機関、障害児の摂食訓練ができる医療機関、口腔機能低下症を管理できる医療機関はまだ少ない状況であり、地域の医療機関や歯科医師会と共に改善に向け考えていく必要があると感じています。

その他様々な課題が山積していますが、計画に基づき、庁内各課、各関係機関・団体等と連携して市民の皆様の歯と口腔の健康づくりに取り組んでいきたいと考えています。

2 第84回日本公衆衛生学会総会 自由集会および懇親会 開催報告 & 静岡県歯科医療提供体制施策の再構築

静岡県健康福祉部医療局医療政策課医療企画班
技師 楠 雄登

「公衆衛生における歯科保健を考える ～食育における歯科口腔保健～」

令和7年10月30日（木）、グランシップ第9会場において、第84回日本公衆衛生学会総会自由集会「公衆衛生における歯科保健を考える～食育における歯科口腔保健～」が開催されました。本集会は行歯会が主催し、行政、大学、歯科医師会、食生活推進団体など多数の関係者にご参加いただきました。



【自由集会の主旨】

本自由集会は、近年改定された「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」および「地方公共団体における歯科保健医療業務指針」により、行政が担うべき歯科保健施策の範囲が大きく拡大したことを背景に開催したものです。

生涯にわたり「食べる力」を維持するためには、乳幼児期からのライフコースに沿って口腔機能の獲得・維持・向上を図ることが求められており、その推進には行政、専門職に加え、地域の食育活動やボランティアを含む多様な主体が連携する多職種協働が不可欠です。

また、次年度より開始される第5次食育推進基本計画においても、第3次・第4次計画で示されてきた「歯科保健と食育の連携」のさらなる発展が期待されています。地域で効果的な歯科口腔保健活動を展開していくためには、データに基づいたエビデンスを活用した実践が求められ、行政とアカデミアが協働し、科学的根拠に基づく取組を広く地域へ普及させることが重要です。

こうした状況を踏まえ、本自由集会では、公衆栄養と歯科口腔保健の連携の意義や役割を整理するとともに、地域の食育活動の中で先進的に歯科保健へ取り組む事例を共有し、参加者との意見交換を通じて、今後各地域での展開をさらに促進することを目的として開催しました。

「公衆衛生における歯科保健を考える ～食育における歯科口腔保健～」

はじめに、国立保健医療科学院生涯健康研究部部長の清野富久江氏が「公衆栄養と歯科口腔保健の連携の意義と展望」について講演し、食育基本法、食育推進基本計画、健康日本21における栄養と歯科の政策的接点を解説いただきました。保育所・学校・地域における多職種連携の重要性、そして政策・研究・実践の循環を生み出す仕組みづくりが求められることを示され、参加者の関心を集めていました。

続いて、藤枝市歯科医師会の高橋裕子氏より、菊川保育園における食育と咀嚼力形成の取組を報告いただきました。歯の本数に応じた調理形態の工夫や、噛む力を育む食材選択など、保育現場での実践を通じて、園児の咀嚼機能向上や食習慣改善がみられたことが紹介されました。

さらに、静岡県健康づくり食生活推進協議会 会長の渡邊良子氏より、地域の食生活改善推進員による啓発活動、幼児から高齢者までを対象とした「健口体操」や口腔機能維持の推進など、地域住民に寄り添った草の根の実践を報告いただき、食べる力と口腔機能の維持向上を一体として捉える視点の重要性が共有されました。

また、指定発言者である国立保健医療科学院の田野ルミ氏より、食育における歯科口腔保健の推進 | 歯科食育サイトを紹介いただきました。<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/ohps/index.html>

質疑応答では、行政・大学・地域組織の連携のあり方、データに基づく政策立案、多職種研修の必要性など、多岐にわたる議論が行われ、今後の多職種連携推進に向けた意見交換が活発に行われました。

締めの挨拶は、静岡県歯科医師会の室伏 正樹先生（専務理事）が務められ、また、同会からは山中 浩矢先生（理事）も出席されました。自由集会に県歯科医師会の役員が出席することは、行政と歯科医師会との連携が日常的かつ実務的なレベルで進んでいることを示すものであり、本集会の趣旨である多職種・多機関による協働の重要性を象徴する場面となりました。

本集会の世話人は芝田登美子氏（三重県桑名保健所）、小栗智江子氏（愛知県保健医療局健康医務部健康対策課）、古谷みゆき氏（静岡県東部健康福祉センター）、田村光平氏（東京都保健医療局医療政策部）、私、楠雄登（静岡県健康福祉部医療局医療政策課）が務め、終始和やかな雰囲気の中で有意義な情報共有を進めることができました。

【懇親会報告（参加者 35 名）】

自由集会終了後、「豚と酒。居チカ場チカ」（静岡市葵区両替町）において懇親会を開催し、全国の行政歯科医師、大学関係者、歯科医師会、自治体職員、厚生労働省関係者など計35名に参加いただきました。

当日は、芝田先生より急遽乾杯の挨拶をご指名いただき、僭越ながら私より「行政歯科医師2年目で未熟な点も多々あるかと存じますが、静岡県から全国へ向けて精一杯取り組んでまいります」との挨拶の後、乾杯の音頭を取らせていただきました。参加者は、北海道・東北から関西まで多岐にわたり、行政歯科の専門領域でこれ

ほど広域のネットワークが一堂に会する機会は貴重であるとの声が多く聞かれました。

懇親会では、各自治体の取組紹介、教育・研究機関との情報交換、次年度以降の研修企画の可能性について活発な意見交流が行われました。特に「食育と歯科保健の連携を行政としていかに推進するか」や、「自治体間で共有すべき成功事例とは何か」といったテーマを中心に、実務的な観点から熱心な議論が交わされました。懇親会は終始和やかな雰囲気で行われ、行歯会の活動を軸とした全国的な連携の重要性を再確認する場となりました。参加者からは「継続的な交流の場を設けたい」「行政歯科領域の専門性をさらに高めていきたい」との声も寄せられ、公衆衛生領域における歯科保健の位置づけを強化する機運が高まったと思います。



(日本歯科医師会元会長 大久保先生の歯科医院前にて)



(三重県桑名保健所芝田先生による開会挨拶)



(静岡県歯科医師会(専務理事)室伏先生による閉会挨拶)



(懇親会:筆者による挨拶と乾杯)

【静岡県の近況報告】

静岡県では、人口10万人当たりの歯科医師数が全国的に少ないという構造的課題を抱える中においても、誰もが歯科医療を受けられる体制の確保を重要課題と位置づけ、歯科医療提供体制施策の再構築を進めています。特に、自宅等で療養し通院が困難な方や、障害のある方など、歯科医療の提供に際し特別な配慮を要する方々への対応については、全国的にも共通する課題であり、都道府県の関与が一層求められている分野です。

こうした中、本県では、障害者歯科医療人材の確保も視野に入れ、全国の歯科医療従事者と県内歯科医療機関とのマッチングを支援する「静岡県歯科医療従事者バンク」を全国に先駆けて運用を開始した。静岡県歯科医師会と連携した本取組は、単なる求人支援にとどまらず、在宅歯科医療や障害者歯科医療を含む地域歯科医療提供体制全体を支える仕組みとして位置づけています。運用開始から10ヶ月間で、求人登録施設数139施設、求職登録者数155人に達しており、全国的に見ても高い関心を集める取組となっています。

また、令和6年3月に厚生労働省から発出された「地方公共団体における歯科保健医療業務指針」において、都道府県が障害者歯科医療提供体制の構築に主体的に関与することが明示されたことを受け、本県では国の



方向性を先取りする形で、地域拠点の具体化に向けた取組を進めています。

その一例として、県東部地域において、障害児・者を対象とした歯科医療提供体制の構築を目的とする国のモデル事業が実施されています。本事業では、輪番制で対応している歯科医療体制の運営改善を図るとともに、地域歯科医師の参画促進、かかりつけ歯科医および全身管理が可能な医療機関との連携強化など、他地域への横展開を見据えた実証的な取組が進められています。

本県としては、これらの取組で得られる成果を県内全域へ波及させるとともに、全国の模範となるモデルとして整理し、今後の歯科口腔保健施策の発展に資することを目指しています。静岡県の実践が、各地域における歯科医療提供体制の検討・構築において一つの参考事例となることを期待し、引き続き関係機関と連携しながら取組を推進していく次第です。

3 第46回全国歯科保健大会開催報告

島根県健康福祉部健康推進課
課長補佐 古割 加奈

令和7年11月22日(土)に島根県民会館において標記大会を開催しましたので、ご報告させていただきます。

大会テーマを「支える健口 つながる地域 ~ご縁の国しまねから広がる笑顔~」と題し、健康の維持・向上、ひいては将来における健康寿命の延伸に歯科口腔保健の充実が重要であることを多方面に向けて広く発信するとともに、歯科保健事業の推進及び歯科保健衛生の普及向上に多大な功績があった個人及び団体の表彰を行いました。

特別講演・対談では、現在NHKにて放映中の連続テレビ小説「ばけばけ」にちなみ、小泉八雲記念館館長の小泉凡氏や俳優の檀ふみ氏を招き、八雲の歯科受診でのエピソードや、檀氏の日々の歯磨きでの工夫、お口の体操の様子について、実演を交えながら楽しく紹介していただきました。

シンポジウムでは、「10年後の歯科医療提供体制と問題点」「健康長寿と咀嚼」をテーマに、島根県歯科医師会の末森一彦先生、前田憲邦先生より以下2点の調査研究結果の報告があり、討論がなされました。



① 「歯科医療提供体制維持に向けての中国5県調査」の結果より

中山間地域では歯科医師の高齢化と同時に受療者の高齢化が進み、10年後には受療困難地区・受療困難者が増加すると予測。現在の歯科診療の枠組では世代交代・事業継承による維持が困難となる、との報告があり、関係者のみならず、この現状を県民に広く理解していただきたい、限られた歯科医療資源を有効に活用・提供するために医師・歯科医師間の連携や関係機関・自治体間の連携協力が不可欠である。地域の実情に併せた制度と運用の再構築を検討する必要性を提言されました。

② 「高齢者の口腔の健康状態と機能障害・死亡との関連性に関する研究結果」より

後期高齢者歯科口腔健診のデータを用い、口腔の健康状態が要介護状態と死亡に与える影響を評価し、結果として「咀嚼機能の低下」「残存歯数の減少」「歯周病の悪化」などが機能障害及び死亡に与える影響が大きくその関連性が証明されたとの報告があり、特に「咀嚼力」と「歯の本数」は非常に重要な要素であり、すべてのライフステージでの口腔機能の保持・増進の取組が重要であるとの提言がありました。

本大会運営にあたり、前回開催地の熊本県の皆様には、都度わからないところを丁寧に教えて下さり感謝申し上げます。

また、県歯科医師会会長はじめ役員の皆様には1年前から準備を進めてられました。前日には平日にも関わらず役員総出でご準備いただきましたこと、そして大会の開催により歯科保健の推進に貢献されたことに感謝申し上げます。

今回の大会が市民参加型の開催としては最後となりましたが、県民を交え県内外から多くの方々にご参会いただきましたことと、多くの行政、歯科職種の皆様と新たな「ご縁」ができましたことに深く感謝申し上げます。

“よう来てごしなった、だんだんね”



4 全国歯科保健推進研修会 in 松江

島根県益田保健所
所長・社会教育士 梶浦 靖二

こんにちは！島根県益田保健所の梶浦靖二です。わたしからは昨年11月21日に開催した全国歯科保健推進研修について報告します。この研修は毎年全国歯科保健大会とセットで開催され、今年で33回目になります。全国歯科保健大会が今年限りとなり、来年度は日本歯科医師会各ブロックが主催で研修を実施することになるようです。ですので、全国歯科保健関係者が熱く交流できる唯一無二の場になればと企画しました。

研修は厚生労働省歯科口腔保健推進室の高田淳子室長の「生涯を通じた歯科口腔保健について」と題した講義と「“連携”の解像度を上げる」というワークショップの2本立てでした。

高田室長からはパーパスとして「全ての国民にとって健康で質の高い生活を営む基盤となる歯科口腔保健の実現」を掲げた歯科口腔保健の推進に関するグランドデザインについてのお話がありました。具体的にはいわゆる国民皆歯科健診のパイロット事業がいよいよスタートすること等の来年度の事業の概況と労働安全衛生法に基づく歯科健診導入の課題等についてもお話いただきました。

ワークショップは「対話」と「探求」を重視し、島根県歯科医師会の先生からの話題提供とブレインストーミングをはさんで2つを企画しました。“連携”という抽象的な言葉を対話で深堀し、参加者自身が“連携”を具体的に言語化するデザインにしました。

桃山学院大学の吉池と栄が、保健医療福祉の領域での連携を「共有化された目的を持つ複数の人数及び機関が単独では解決できない課題に対して、主体的に協力関係を構築し、目的達成に向けて取り組む相互関係の過程である」と概念整理しています。他機関の主体性の育みが“連携”の目的であり、複数機関の関係性の構築が目標になります。この目標、目的の達成で有効なのがワークショップなのです。今回はグループでの対話をとおして、素直にワークシート化した模造紙を順に作成していけば、主体性や関係性について学ぶことができるデザインにしました。

実際は、ワークショップとグループワークと混同し、今回のワークショップデザインから逸脱するグループがいくつか見られました。あるグループは書記役を決めていました。そうすると、自分が主体的に発した言葉が他人の言語に置き換わってしまいます。また、書記役の人が他人の話を聞くことに集中してしまい、主体的に思考することがおろそかになってしまいます。私からそういった趣旨をお話し、以降は軌道修正されたのではないかと思います。そのグループはそれぞれの主体性が表現されたとてもカラフルな模造紙が出来上がりました。

また、あるグループでは持参した付箋を使って、自分たちのやり方で“グループワーク”をやりきってしまったところもありました。ワークショップは、会議やグループワークのように最終的に結論を出すものでなく、プロセスの中



で気づきや学び合いを生み出すことを重視しています。ワークショップとグループワークを履き違えてしまい、ワークショップの目的から逸脱してしまったようです。私が「話し合いが脱線していませんか？」と問うと、なんとはつきり「脱線しています」と言われてしまいました。見ればわかりますが、誰かが力技で最後にワークシートを完成させちゃったようです。こちらが意図した関係性や主体性の育みは生まれなかったように思いました。

精緻にデザインされたワークショップを繰り返していくと、つながりづくりが生まれ、人づくりにつながり、地域づくりに発展していきます。連携から協働へとステージアップしていく、これこそが多職種連携教育の目指すところですね。

ブレインストーミングで構築された関係性をもとに、多職種連携に向けて、自分が主体的に踏み出す第1歩を考えてもらう時間を設けました。完成した模造紙を振り返ってみると「話し合える仲間づくり」「コミュニケーション」「声をかける」「たくさん対話する」など多くの人が対話に関することや主体的に行動を起こすような一歩を書かれていました。皆さんの主体的な行動がまちをカラフルにしていきます。多くの人が多職種連携で一番大切なことを理解していただけたのではないかとうれしく思いました。



研修終了後、みんな笑顔で記念撮影

5 JDATアドバンス研修会参加報告<東日本ブロック>

北海道浦河保健所企画総務課

専門員 桐山 結姫

1 はじめに

こんにちは。北海道浦河保健所の桐山と申します。行歯会の皆様にはいつも大変お世話になっております。今回は、JDATアドバンス研修会（東日本ブロック）に参加する機会をいただき、誠にありがとうございました。また、行歯会の皆様におかれましては、日頃から有益な情報をご提供くださり、感謝申し上げます。この度、初めて執筆の機会を頂戴しましたので、自己紹介と研修会の参加報告をさせていただきます。



2 自己紹介

私は、オホーツク社会福祉専門学校を卒業後、新卒で行政歯科衛生士となりました。卒業後、最初の勤務地は渡島保健所で、平成30年北海道胆振東部地震の際は函館市に住んでおり、震度5弱の揺れとブラックアウトを経験しました。胆振東部地震の際は、使用できる電気に限りがあり、私自身が新任期職員であったことから動員はかからず、電気が復旧するまで3日間自宅待機の指示を受けました。地震での直接的な被害はなかったものの、市内は信号が全て消灯し、警察が交通整理をしたり、運転手同士がハンドサインで道を譲り合うような状況でした。

令和3年4月に現在勤務している浦河保健所に転勤となり、まず驚いたのは地震が多いことです。浦河保健所がある日高地方は、胆振地方と隣接し、震度1～2程度の小さな地震が頻繁に起こります。海沿いに町が広がっており、大地震が起これば、官公庁や多くの住家が津波被害に遭うと想定されています。

本研修を受講したのは、地震の多い日高で「歯科専門職は何が出来るか」を周りの方々に知ってもらいたいと感じたことがきっかけです。災害支援未経験で力量不足を感じているところですが、災害対策に1歩踏み出す機会を与えてくださり、非常にありがたく感じております。

3 研修内容

(1) 事前課題

昨年までに標準研修を修了していたので、まずは標準研修の資料を見返すところからスタートし、事前配付されたテキストと合わせて研修動画を視聴後、いくつかの事前課題に取り組みました。普段はあまり聞くことの無い地域防災計画や医療計画を見ながら、災害時の「歯科」の役割や位置づけについて整理しました。

(2) 都道府県におけるコーディネート

講義と演習を交互に行う構成で、グループワークではフェーズごとに外部支援団体の派遣調整等について検討しました。ワーキングの中で、平時から備えている体制や実際の困りごとなどを共有いただき、その内容を組み込みながら支援計画を考えました。講師の中久木先生や演習補助者の先生からは災害活動でのご苦労等、直接お話を聞くことが出来、有意義な時間となりました。他グループからは内容の異なる支援計画が挙がり、アセスメントの視点や関わる職種、災害支援経験の有無によって重視する点が異なることを実感しました。心の中は「そこまで気がつかなかった」の連発で、現地支援の経験が豊富な先生方には、改めて頭が下がります。

(3) 受援における個別調整～クリティカルシンキングを活用した課題の整理と活動方針の検討～

架空の災害想定で、課題解決に向けたグループディスカッションを行いました。事前課題の中で疑問点・問題点、検討が必要な点を個人ワークし、当日グループディスカッションをするという構成となっておりましたが、検討したい課題が多く、時間内では結論にたどり着くことが出来ませんでした。ディスカッション中、補助者の先生からいただいた「誰かが決めなければならない」「若くても、歯科衛生士でも、行政職員だから」と

という言葉が強く印象に残りました。災害現場で求められる「迅速に判断する能力」とその意識を身につけることは、今後の自分自身の課題としていきます。

4 おわりに

本研修では、JDATとしてより具体的な動きを学ぶことが出来、実りの多きものでした。日高地域でどのタイミングで・誰と・どのように関わっていくか、平時から管内町や日高歯科医師会等の関係団体と整理しておく必要性を感じ、帰庁後、何度もテキストを読み返しています。また、外部支援が入る段階から、支援終了時には地域に繋いでいくことを見据えて支援にあたることが重要であると感じました。

私自身はまだ行政歯科衛生士としての経験が浅く、災害歯科支援業務への従事経験も無く、本研修を修了したのは、平時から出来る備えのほんの1歩に過ぎません。何よりも災害が起こらないことが1番ですが、発災時には支援者・受援者として、それぞれの立場で出来ることを北海道の皆さんと一緒に考えていけるよう精進して参ります。

6 「行政歯科衛生士研修会」報告

神奈川県 横浜市栄福祉保健センター福祉保健課
中澤 寛美

1 はじめに

行歯会の皆様におかれましては平素より大変お世話になっております。また、日頃より有益な情報の共有をいただきましてありがとうございます。

この度、令和7年11月1日(土)に東京科学大にて開催されました日本歯科衛生士会主催の令和7年度行政歯科衛生士研修会に参加し、執筆の機会をいただきましたのでご報告いたします。

(右の写真は横浜市栄区のマスコットキャラクター「タッチーくん」と撮影したときのものです。神奈川県のゆるキャラランキング第1位ですので、栄区にお立ち寄りいただいた際に見つけてみてください!)



2 歯科保健医療動向について

前半は、厚生労働省医政局歯科保健課小嶺祐子先生より「歯科保健医療動向」と題し、歯・口腔の健康づくり、歯科医療提供体制の構築の推進、歯科衛生士に関する最近の動向の内容で御講演いただきました。日本歯科衛生士会の委員会合同企画とのことで、会場には様々な就業先の歯科衛生士が参加しました。

歯・口腔の健康づくりでは、令和6年度歯科疾患実態調査による現状や歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(歯・口腔の健康づくりプラン)の策定、地方公共団体における歯科保健医療業務指針について御説明いただきました。歯科疾患実態調査は、全国値と自治体ごとの値で地域差が非常に大きい資料があり、担当地域の人口や特性も一緒に把握し活用することの重要性を御説明されました。

また、「地方公共団体における歯科保健医療業務指針」は、幅広い内容が記載されていますが、各自治体の必要性が高い事業に関して他職種や関係者に対する説明資料として活用することが望ましいとお話がありました。歯科医療提供体制の構築の推進では、ほぼすべての地域で生産年齢人口が減少し、高齢人口は大都市部では増加、過疎地域では減少、地方都市部では混在となる予想の2040年頃に向けた医療需要の変化やそれに伴う医療従事者の確保と在り方の検討が課題として挙げられました。

歯科衛生士に関する最近の動向では、就業歯科衛生士の状況、介護保険施設や自治体等に従事している歯科衛生士の充足率等について御説明があり、今後は在宅療養患者や入院患者が増加することが見込まれることで発生する医療ニーズに対する歯科衛生士の在り方を考えていくことが求められていると御教示いただきました。

3 行政歯科衛生士グループワークについて

後半は、「10年後の歯科保健医療を見据えて、今、何をするのか」と題し、行政歯科衛生士で次の5つのグループテーマに分かれ、グループワークを行いました。グループテーマは、【A】母子歯科保健対策、【B】成人歯科保健対策、【C】在宅療養高齢者・障害者の歯科保健医療提供体制、【D】災害時歯科保健医療提供体制整備、【E】歯科衛生士の人材確保・人材育成の5つです。私が参加した「【D】災害時歯科保健医療提供体制整備」のテーマでは、災害時マニュアル整備や外部の関係機関との連携、災害時医療訓練の歯科職種の参加など各自治体が抱えている共通の悩みや課題を共有しました。自治体間で現在の制度や規模が異なっている、抱えている課題は似ていると感じ、同職種と話すことで調整に関する悩みの共感や、今まで見落としていた課題を発見することができ、大変貴重な時間となりました。あっという間に終わってしまった感覚でしたので、このような研修が次年度以降も実施されると大変嬉しく思います。

4 懇親会について

最後に、研修後に参加した懇親会について少し触れさせていただきます。懇親会では、小嶺先生や行政歯科衛生士が多数参加し、美味しい食事を囲みながら歯科衛生士同士の悩みを共有し合うことができました。最初は一人参加で心細く感じていましたが、懇親会が終わる頃には参加者の方々が温かく接して下さったことで楽しい気持ちで終えることができ、勇気を出して参加してよかったと思っています。最後までお読みいただきありがとうございました。

7 世話役のつぶやき

神奈川県

神奈川県健康医療局保健医療部健康増進課
歯科保健班長 副技幹 大平 貴士

<はじめに>

こんにちは。神奈川県健康増進課の大平と申します。行歯会の皆様には、いつも貴重な情報提供をいただき、心より感謝申し上げます。今年度より神奈川県の世話役を務めさせていただくことになりました、歯科医師の大平です。

令和5年4月に神奈川県に入庁し、令和6年2月には「New Face!!」として寄稿させていただきました（『行歯会だより No.192』参照）。今回で2回目の寄稿となります。頻度が多いな、と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、各都道府県の世話役による持ち回り企画ということで、何卒ご容赦ください。



自己紹介や神奈川県のご紹介についてご興味のある方は、(いないかもしれませんが…) 令和6年2月の寄稿をご覧ください。

<世話役のつぶやき>

最近の取り組みについては、先日メーリングリストで情報を共有させていただいたこともあり、今回は業務に関する話題は控えさせていただきます。少し話題を変えてみなさんにお伺いしたいのですが、「生成AI」をどのくらい活用されていますでしょうか？

私自身、入庁前から個人的な調べものに活用していましたが、昨年には国が行政におけるガイドラインを制定するなど、業務での利活用が進む土台が整備されてきたと感じています。神奈川県庁でも令和5年8月に生成AIの使用に関するガイドラインが策定され、入力した内容が学習データに利用されない環境での活用が可能となっています。現在では、挨拶文案の作成、文章の校正、会議の議事録作成、さらには調査結果をまとめるVBAマクロの構築などで利用しています。（ちなみに利用できるのは少し前のバージョンのChatGPTです。）

生成AIの使用に関しては、各自治体でルールが異なるかと思いますが、もし使用可能な環境であれば、時間に余裕がある際に、あえて自分でもできる作業を試しにAIにやらせてみると、その可能性に驚かされるかもしれません。

ちなみに、今回の寄稿に添付したイラストも、令和6年2月の寄稿時の写真をもとに生成してもらいました。（使用モデルは「Genimi3Flash」、画像生成エンジンは「NanoBanana」を使用。）年末年始に遊びで作ってみたのですが、家族（主に娘2人）に好評だったので、今回の寄稿に使用してみることにしました。かなりデフォルメされていますが、意外と私の特徴を捉えているのではないのでしょうか？

<おわりに>

これからも行歯会の皆様と情報を共有しながら、より良い取り組みを進めていければと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました！

8 New Face!!

NEW

東京都 中野区地域支え合い推進部地域包括ケア推進課
北部すこやか福祉センター
島村 陽南子

1 はじめに

行歯会の皆様、はじめまして。中野区地域包括ケア推進課北部すこやか福祉センター、歯科衛生士の島村と申します。行歯会の皆様には、日頃より貴重な情報提供をいただき、誠に感謝申し上げます。この度、行歯会だよりに執筆させていただく機会をいただきましたので、僭越ながら自己紹介をさせていただきます。



2 自己紹介

出身は群馬県です。中学・高校時代は長野県、大学時代は新潟県で過ごしました。大学卒業後の1年間は新潟で大学院生として、調査や論文作成、アルバイト、ボランティアを行いました。

大学院では、独居高齢者における栄養摂取状況と口腔機能状態の関連に関する調査に携わらせていただきました。その際に、調査地域の健康福祉課および保健福祉センター等の保健師や職員、地域の医療機関、地域の民生委員の方々と連携しながら、地域に暮らす高齢者の健康状態を把握する機会を得ました。この経験を通して、地域の方々の生活背景を踏まえた支援の重要性や、多職種による協働の大切さを実感するとともに、行政の立場から歯科保健に関わる歯科衛生士として働きたいと考えるようになりました。これらの経験が、行政歯科衛生士を目指すきっかけの一つとなり、2年前に中野区の採用を機に上京し、現在に至ります。

中野区は、東京都23区の西側に位置しており、人口は約34万人の区です。中野サンモール商店街やサブカルチャーの聖地として知られる中野ブロードウェイがあるなど、活気があり、買い物に便利な街です。一方で、公園や落ち着いた住宅街も多く、子育て世代から高齢者まで、幅広い世代が暮らしやすい街だと感じています。

私は北部すこやか福祉センターに配属され、主に母子保健事業を中心に従事しております。会計年度任用職員の先輩歯科衛生士をはじめ、栄養士、保健師、福祉職、心理職、事務職等、周囲の方々に助けをいただきながら、日々業務に取り組んでおります。

3 最後に

入庁して早2年が経とうとしていますが、日々、勉強不足や力不足を感じる場面が多いのが現状です。今後は、できることを一つずつ着実に増やし、多職種・他部署と連携した歯科保健活動等の実現に取り

組んでいきたいと考えております。行歯会の皆様には今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。

♪ 編集後記 ♪

牡蠣のおいしい季節になりました。毎年この時期になると、仲間たちと牡蠣小屋へ出かけています。その中には、“調味料の達人”がいて、レモン、ポン酢といった定番はもちろん、バター醤油、ホワイトソース、アヒージョ風などなど、多彩なアレンジを繰り出してくれます。今年もそろそろ…(A)



今年は雪が多いため、初めて自宅の庭にかまくらをつくりました。子どもが中に入って遊んだり、ビニール袋に入れたミカンを中に入れて冷やしたり、楽しみました。これを書いている現在は、気温が上がり雪も大分溶けてきました。そろそろ春が待ち遠しいですね。(T)

